

| | |
|------------------|---|
| Title | 総合日本史概説上巻(栗田元次著, 中文館書店) |
| Sub Title | |
| Author | 松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1926 |
| Jtitle | 史学 Vol.5, No.3 (1926. 7) ,p.146(452)- 146(452) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 書評 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260700-0146 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の發掘は、朝鮮の古美術に對する研究に益々その重大性を加へたのである。しかるに從來この方面に關して寫眞や印刷物が甚だしく、研究者をして甚しき不便を感じしめたが、今般總督府博物館の藤田亮策、小泉顯夫兩氏が主任となつて、三國以來の佛教藝術を初め、古墳の遺物、有史以前の遺物、陵墓、殿廟、塔碑、石人石馬等の彫刻等、學問上からも藝術上からも貴重なる材料となるべきものを、總督博物館、李王家博物館、或は個人の珍藏品より撰擇して、それに一々説明を附し、中版寫眞版十枚一組として、毎月發行されることになつたのは、研究者にとつてこの上もなき幸と言はればならない。すでに三輯まで發行され、その中には石器時代の土器文様を始めとして、樂浪古墳の出土品、或は慶州石窟庵の本尊など多くの珍しきものが包含されてゐる。(松本芳夫)

綜合日本史概説

上卷

(栗原元次著
中文館書店)

著者は本書の緒言において、わが國史が世界無比として誇り得べきにかゝはらず、現代の國民がこの光輝ある國史の成迹を忘却せんとしてゐることを慨き、智識階級にしてその國史に迂なること現時の我國の如きは世界においても稀にみるところなることを説き、その原因の一つが教養ある一般人士に適する國史の良書に乏しきためであるとなし、この缺陷を補ふとともに、中等以上の學生や中等教育に従事するもの、參考に供せんがために本書をなしたのであつて、その記述は時代の下るにつれて稍詳しく、また政治、法制、戦争、文化等の一方面に偏らないやうに注意し、全

體としての國史を説くにつとめたことを述べられた。かくて本書においては、國土及び國民をもつて章を起し、第三十九章豊臣時代の外國關係に筆を擱き、所々に鮮明なる寫眞版と圖解とをもつて興味と理解とを助けてゐる。さうして温健なる見解の下に、よく史實を統一整齋せる點において、その目的に成功せるものと言ふことができよう。但し吾々が一般讀者として本書をみるとき、そこになほ多少の希望もないではない。例へば黃泉國の意義説明せらるゝ以上は、高天原についてはそれ以上にその意義を説明せられたい。或はまた應神朝の歸化人の場合における百二十縣とか十七縣の縣の如きについても註記せられたい。一般讀者の立場からみて本書の性質上簡單なる説明を要求したい事項は其他にも多く存在する。なほ鎌倉時代の宗教において、一遍上人をあげて融通念佛を説明してゐるけれども、融通念佛としては平安朝の良岡上人をあぐべきではなからうか。しかし慾を言へば限りはない。ついで現はれるであらう下巻とともに、國史の良き參考書として推奨し、著者の努力を多とするものである。(松本芳夫)

中世に於ける精神生活

(平泉澄著
至文堂發行)

本書は國史研究叢書第一編として公にされたものであつて、平泉氏の帝國大學に於ける講義案を基としたものである。

此處に中世と言ふは、保元以降室町幕府の滅亡まで、即ち武家武門の興起して公家を壓倒してより、信長の足利氏を追放した天正元年までである。此の時代は後世の人々より暗黒時代と呼ばれ